

'06.7.14

会報

SHINSHIYOU

神私幼

第157号

発行：(社)神奈川県私立幼稚園連合会
発行人：会長 渡邊 眞一
編集人：神私幼総務部(広報室)

〒221-0011 神奈川県横浜市神奈川区神之木台22-14
県青少年課神之木台分館内
TEL 045(430)3102 FAX 045(430)3103

幼稚園教育に

期待すること

神奈川県知事

松沢 成文



(社)神奈川県私立幼稚園連合会におかれましては、本県の幼稚園行政の推進に日ごろからご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。また、神奈川の幼稚園教育の振興のため、研究を重ね議論を深めておられますことに、深く敬意を表する次第です。

さて、平成二年の「一・五七

ショック」以降、国を挙げてさまざまな少子化対策が進められています。出生数は減少を続け、合計特殊出生率も過去最低を更新しています。都市化や核家族化の進行、そして経済情勢の変化なども相まって、本県におきましても、子育て環境は厳しさを増しています。

そうした中、県では、平成十

七年三月に「かながわぐるみ・子ども家庭応援プラン」を策定し、次世代育成の基盤を支える地域社会づくりや、地域における子育て支援施策の充実・強化、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ教育など、社会全体で未来を担う次世代を育成できるよう、さまざまな取組みを進めています。

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。幼稚園は、その幼児期において、人生で初めて集団生活を送る場であり、幼児教育の中核を成す重要な役割を果たしています。子どもたちは、幼稚園という新たな環境で、遊びや体験学習、そして友達や先生との交流を通して人とかかわり方を学び、社会性を養っていきます。そして、幼稚園のご指導の下、一人ひとりがそれぞれの個性を生かしながら「生きる力の基礎」を身につけ、自立に向けて歩き始めます。

また、家庭や地域の教育力の低下が指摘されている昨今、幼

稚園は、園児への教育ばかりでなく、親子ふれあい事業や子育て相談などを通じて、地域における子育て支援の中核的な役割も担っていただいております。県といたしましても、そうした私立幼稚園が果たしておられる役割を十分に認識した上で、より一層力を発揮していただけるよう、幼稚園の運営に係る経常費補助をはじめ、預かり保育や地域開放事業を行う幼稚園への支援に努めております。さらに、貴連合会のご後援を頂きながら、識見豊かで優れた資質を持った教員を育成するための幼稚園新規採用教員研修も毎年実施しているところです。

今後とも、幼児の自発的な活動を大切にし、幼児の心に寄り添ったご指導をお願いいたします。そして、幼稚園教育のさらなる充実・発展と、神奈川の次代を担う子どもたちの健やかな育成のため、皆様方のさらなるご尽力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会長就任のご挨拶

情報を発信する 県連として

会長 渡邊 眞一



この年度替わりに役員任期満了に伴い、県連合会会長に就任いたしました渡邊です。何分にも若輩者ではありますが、与えられた時間を幼児教育の充実とそれを支える諸施策の充実に向かつて、五人の副会長の先生、十二協会の先生そして理事・監事の先生とご一緒に全力を注いだ運営に努めてまいりたいと念ずるところです。

でいくかは更に重要なテーマとなります。

一方、私幼を取り巻く諸課題は数多く、しかも、その中味の一つ一つは、これから先の幼稚園経営・運営に直接かかわりのある課題ばかりです。直近の課題としては、認定子ども園、公益法人制度の改革があります。近々、県当局に認定基準づくりの委員会が設置されます。また、公益法人制度の改革では、現行の社団法人のあり方が問われます。県連にとって、社団の改革は大きな課題です。また、経常費補助金の寄与率が県当局の目標数値五十%に限りなく近づいたこともあり、新たな対応が求められる今期です。

国に目を向けると、新幼児教育振興アクションプログラム、幼稚園教育要領改定、次世代法などへの対応があります。幼稚園三十人学級、四年制大卒教員二、三割目標、自己評価の導入と結果の公表など新たな課題に立ち向かわなければならぬかも知れません。このほか、財団法人・全日私幼研究機構が動きはじめます。幼児教育の質を高めるために広く幼児教育への理解と関心を高めるために誕生した、この新組織活動に注目したいところです。

さて、今日の子育て環境は子どもにも、保護者にも課題が多々山積しています。そのなかにあつて、幼稚園教育が目の子どもたちに何を保障していくべきかを探求することはきわめて重要なテーマです。そして、このことを急速に変化しようとする諸制度のなかにどう織り込ん

育振興アクションプログラム、幼稚園教育要領改定、次世代法などへの対応があります。幼稚園三十人学級、四年制大卒教員二、三割目標、自己評価の導入と結果の公表など新たな課題に立ち向かわなければならぬかも知れません。このほか、財団法人・全日私幼研究機構が動きはじめます。幼児教育の質を高めるために広く幼児教育への理解と関心を高めるために誕生した、この新組織活動に注目したいところです。

ともに、各協会、地域に則した施策の展開が出来ていくことを期待します。

終わりに、前会長・永保固紀

先生には正副会長を通算十年、県連のためにお力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。礼のことばといたします。

今年度の活動方針は

第一に、地方分権化の流れのなかで市町村行政が幼児教育の充実には重大な責任を持たなくてはいけなくなってきたり、各協会において、市町村の幼児教育担当課との連携を深めていく必要があります。

「架け橋」今後のかながわの幼児教育について」に沿った活動を展開し、新幼児教育振興プログラムへの対応へ結びつける。

三、次世代育成支援対策推進協議会に県及び市町村ともに委員を派遣し、それぞれの数値目標を達成するよう進行管理する。

今年度の活動方針は別に記すこととして、新体制には数多くの課題があります。県連としては種々の情報をいち早く解析して周知し、県・市町村の動向を注視して情報を発信します。

さらに、いわゆる総合施設、教育要領の改訂、新幼児教育振興プログラムへの対応や教育基

四、いわゆる総合施設認定基準策定に幼稚園の立場から積極的に関わる。

どうか、各幼稚園におかれましては、教育の基本を踏まえつつ、地域や自治体の特性、保護者の要望に答えられる糧の一つに情報を活かしていただける県連の活動も重要な課題であると考えております。会員各位には

二、幼児教育振興プログラムの

力してまいります。

各地区協会長



茅ヶ崎市私立幼稚園協会
滝口 宣



鎌倉私立幼稚園協会
浦海 葉枝



藤沢市私立幼稚園協会
沢野 文生



横須賀市私立幼稚園協会
田中 なごみ



川崎市幼稚園協会
井上 久



横浜市幼稚園協会
内藤 義幸



厚木地区幼稚園協会
小沢 俊通



逗葉私立幼稚園協会
森本 恵美



相模原市幼稚園協会
澁谷 武男



相和私立幼稚園協会
古郡 孔文



小田原私立幼稚園協会
岡田 薫子



湘央地区私立幼稚園協会
栗山 明

- 一、標準的運営方式の新たな仕組みを提案するとともに、一〇二条園を含めた経常費補助金の寄与率を引き上げる。
- 二、幼稚園は極めて地域性の強い学校であるとの認識にたち、
- 三、公費による保護者への直接助成制度の充実策を検討する。
- 四、社会情勢の変化に対応し、その格差の是正を図る。
- 五、公私幼保並びに関連施設の幼稚園経営に資するため、小規模園などの永続性が保障される助成のあり方を構築する。
- 六、子育て支援事業等に対する助成の充実を図る。

十年後の自園の姿が見えますか

—どんな幼稚園にしたいと思えますか—

経営管理部長 長瀬 潔

日本経済は、いざなぎ景気を抜いて史上最長の成長を続けています。私たちにその実感がないのは企業がリストラを繰り返し、そのお陰で利益が回復したためでしょう。そのリストラを繰り返して利益を上げてきた企業が、団塊の世代の定年を前に大量採用を始めました。『企業は人なり』という言葉の通り、人材育成は企業にとって大切なことです。幼児教育においては『後継者の育成』を通して未来に夢を持てるような幼稚園経営のヴ

イジョンを伝えること。そして優秀な教諭を育てるために養成校との関係を密にして行く必要があります。九月六日（水）には養成校のお話を伺う研修会を企画いたしました。

また、少子化の問題は、子どもが二十五歳連続減少を続け、平成十八年四月一日、現在、総人口比最低の十三・七％になってしまいました。この数字をどう読むか。少子化解消のために保育所を造るといいますが、保育所があれば、子どもを産もうと考

えている夫婦がどれだけいるでしょうか。しかし、現実には、保育所を造ることで問題を解決できると信じ、補助金は、横浜市概算では保育所には五百億円に対して、幼稚園は五十億円の差です。逆に、幼稚園は保育所の三倍の子どもたちを預かっていて、いま、私たち幼稚園の関係者が幼児教育について、もう一度じっくり考えるときだと感じています。そのために必要なことを今年度の研修で企画をいたします。

どうぞ よろしく お願いします



副会長
森本 恵美



副会長
古郡 孔文



副会長
沢野 文生



副会長
伊藤 夏夫



副会長
吉原 久雄



会長
渡邊 眞一



研究部 研究室長
栗山 明



財務部長
武藤 保之



経営管理部長
長瀬 潔



研究部長
亀ヶ谷 忠宏



振興部長
山口 繁美



総務部長
丸山 征

平成十八・十九年度役員名簿

(○印は協会長)
()は自園名

会長

渡邊眞一(初音丘)

副会長

吉原久雄(池辺白ゆり)

伊藤夏夫(丸山)

研究部長

○沢野文生(つかさ)

総務部長

○古郡孔文(綾西)

振興部長

○森本恵美(逗子)

研究部長

丸山 征(かおり)

経営管理部長

山口繁美(つるま)

財務部長

亀ヶ谷 忠宏(宮前)

総務部広報室長

長瀬 潔(中野)

研究部研究室長

武藤保之(友愛)

総務部次長

井上一彦(太陽第二)

振興部次長

○栗山 明(二宮めぐみ)

○澁谷武男(谷口)

山田誠一(おおぞら)

研究部次長

難波有三(はやし)

経営管理部次長

○田中なごみ(うわまち)

財務部次長

渡井和佳(マヤ)

振興部担当常務理事

○内藤義幸(上飯田)

総務部担当理事

○井上 久(川崎青葉)

研究部担当理事

○浦海葉枝(鎌倉いずみ)

振興部担当理事

○滝口 宣(恵泉)

研究部担当理事

○岡田薫子(城山)

経営管理部担当理事

○小沢俊通(厚木田園)

財務部担当理事

田渕直美(横浜三育)

総務部担当理事

金子 禎(ひまわり)

研究部担当理事

角和 一太郎(ニューライフ)

振興部担当理事

木元 茂(幸ヶ谷)

龜井観一郎(寺尾第二)

永井 宏(ひばり)

森田裕明(上町教会付属めぐみ)

大澤一之(松風)

灘波文夫(なでしこ)

永保固紀(田名)

研究部担当理事

柏木照正(都筑ヶ丘)

石渡敬一(江川)

田淵恵美(もみじ)

中村邦彦(比企谷)

石井稔江(かぐのみ)

経営管理部担当理事

安西 透(平和)

上坂 喬(桂)

宮田 要(三陽)

松永敏秀(相沢)

森 慎互(ながつた)

鈴野茂男(富士塚)

川戸俊明(東俣野)

山田静栄(相武)

小林 俊(秋葉台)

赤間浩正(茅ヶ崎つるみね)

長塚美次(伊勢原白百合)

磯川 浩(倉見)

金子英行(虹ヶ丘)

財務部担当理事

藤田 聡(潮見台みどり)

川井俊幸(相模ひまわり)

監事

布施晴造(布施労務事務所)

龜井京子(武山)

顧問

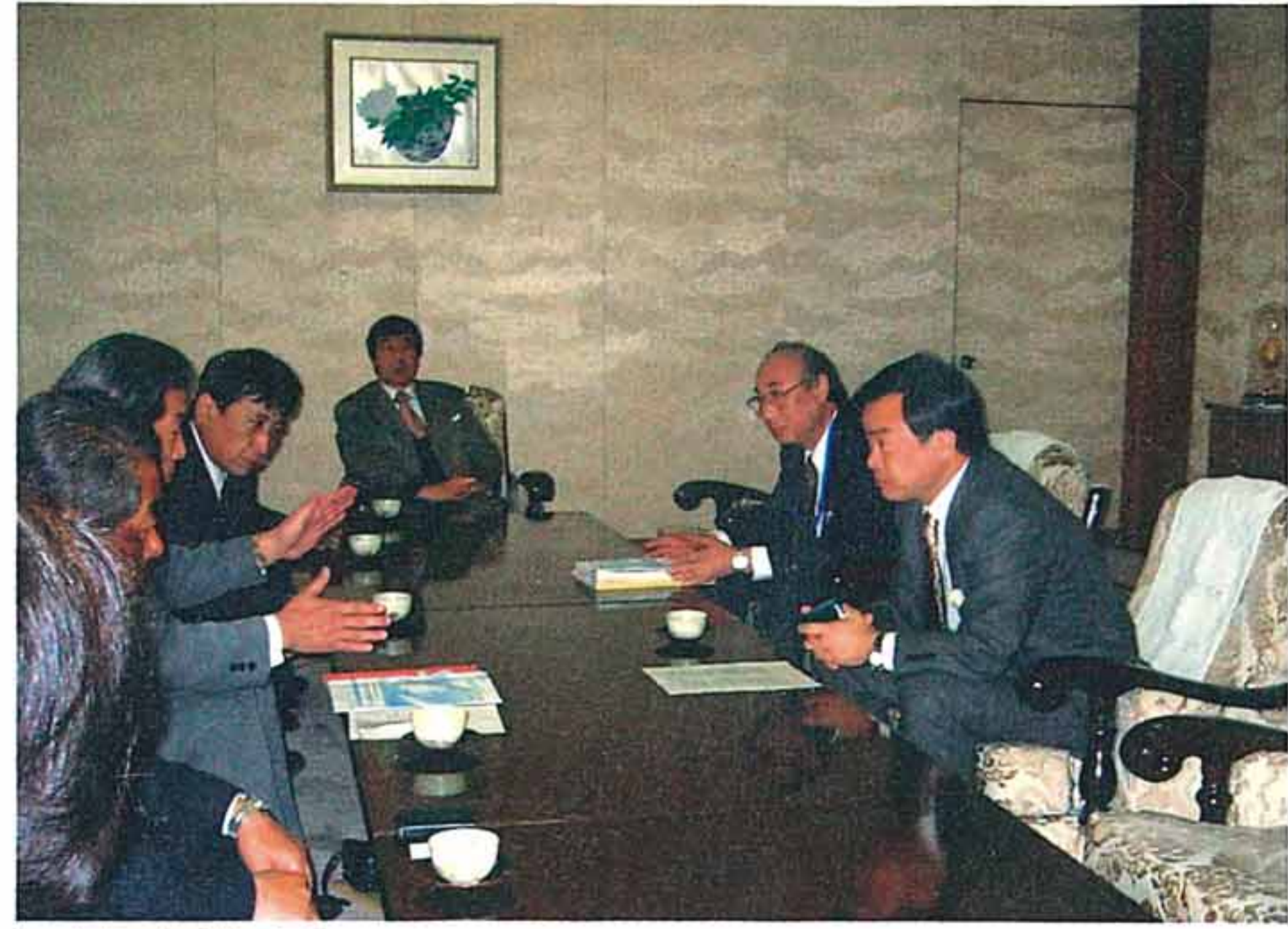
小笠原平八(平戸)

遠藤匡弘(伸びる会)

若月芳一(香蘭)

幼児教育について語り合う 松沢県知事を表敬訪問

総務部長 丸山 征



知事応接室にて

はからずも、県連の総務部長に就任することになりましたが戸惑の日々が今も続いています。何から手をつけていいのか困っていました。出来ることからやってみることにしました。

唯一気がかりだったのが知事との関係でした。県連と知事との関係は久しく途絶えていました。そこで関係改善の第一歩として知事との会談が必要だと考えました。

思いのほか、スムーズに知事への表敬訪問が実現することになりました。四月二十七日午後二時三十五分から同五十分までと短い時間ですが、表敬訪問が実現する運びとなりました。当日は、正副会長はじめ、振興、総務部長、局長、退職財団理事

長が出席しました。知事から「神奈川の幼児教育を担ってくださる皆様には、日頃より感謝します」との冒頭のご挨拶がありました。これを受けて、渡邊会長からは次世代法、幼児教育振興アクションプログラムについて言及し、知事・県行政の協力を得られるように依頼しました。この後自己紹介があり、森本副会長から補助金の現状について、熱い思いを語りました。最後に記念写真を撮り解散しました。

事業別予算がスタート

財務部長 武藤 保之

平成十八年度、神奈川県私立幼稚園連合会は新会長の下で次世代の幼稚園教育振興のために精力的な活動が始まりました。

向けての情報収集を図りたいと考えます。

財務部としては平成十八年四月一日施行の新会計基準に伴い今後の運用指針と内部管理事項などについて本連合会に最もふさわしい内容を検討し、実施に

昨年度より「事業別予算編成検討委員会」で話し合い取りまとめた結果、今回の会計基準の改定に沿った方式として初めての年になりました。

事業別予算は定款各号に該当する事業計画とその必要経費を

見積もって計上しています。

ちなみに、その概要を下表に紹介しておきましょう。

このような年間の事業計画、予算は総事業を積み上げたものですから、個別の事業を実施する場合、必要な予算について理事会で審議し、終了すれば事業決算について審議するなど情報を共有できます。

長らく使い慣れた部建て予算から本年度より事業別予算に変わり戸惑いが感じられますが、

これからは皆さんと情報交換をしながら、より使いやすい予算編成に取り組み、これからの連合会の諸活動の公益性と公益性を如何に担保できるかを共に検討したいと思います。

①幼稚園教育に関する調査研究事業	2,300千円
②幼稚園運営に関する協議研究事業	2,600千円
③研究会の開催及び研究事業の奨励事業	2,378千円
④教職員の資質の向上のための研究講座及び福利厚生事業	3,670千円
⑤図書、印刷物の刊行及び資料収集並びにその配付事業	3,550千円
⑥その目的を達成するために必要な事業	6,610千円
合計	21,108千円

●より専門的な保育の知恵やスキルを●

幼児のための研修を

研究部長 亀ヶ谷 忠宏

いま、かけがえのない幼児おぼこが育つための環境は、「悪い」「厳しい」としか言いようがなくなってきました。

一つは、心身のもつとも変化の大きな成長期にある幼児にとって生きるための土台となる「食事」や「睡眠」がおろそかにされていること。一つは、幼児が犠牲になる犯罪が多発し、屋外で安心して安全に遊べなくなってきました。

一つは、テレビやインターネットなどから垂れ流される刺激的な暴力シーンなどが現実と空想のまだ曖昧な幼児のやわらかな心に刻み込まれていること。一つは際限のない預かり保育など、子育てが楽になるように次々打ち出されるサービス。社会変革の波の中で、大人の都合からの制度改革が矢

継ぎ早に出され、幼児にとっては親の愛情が感じにくくなってきていること。また、子どもが欲しくても産み育てにくい経済的社会的支援の貧弱さも大きな問題です。さらに、地球の環境破壊によって気候変動が大きくなってきていることも明日の地球で生きていく幼児にとつては重大な問題です。などなど……。

このように幼児が安全に健やかに育ちにくくなっている状況が幾重にも重なってきています。残念なことに、まず大事にされないといけないのは、幼児の心身の育ちが今はずつと後ろに追いやられている状況です。いまこそ、幼児の側に立って発言していくことが求められています。それが出来るのは、幼児教育に携わる、それも幼稚園の園長や保育者こそが、

本当の意味で子どもの側に立った、幼児にふさわしい生活や教育を考えられる位置にいます。そのため、「研修」は大きな意味を持っています。我々は「研修」によって、いろいろな見方、考え方があることを知り、子どもの捉えを着実に深めていくことが出来るようになります。そのことで、子どもにとって本当にもさわしい教育とはどのようなものが見えてきます。



いま、このような時代だからこそ、「研修」の中で学んだ、幼児が健やかに育つために必要な環境や援助の大切さを、社会に対してきちんと発信する必要があります。また、いくら溢れるような愛情のある先生であっても、それだけでは子どもの発達に添った保育は出来ません。そこに、より専門的な保育の知恵やスキルが必要といえます。そのためには「研修」は欠かせません。

研究部の活動が、神奈川の私

今年度の計画は

研究部は大きく分けると研究部事業と対外的事業があります。

一 研究部事業

- (1) 各地区（五地区）研究大会（五年に一回）
- (2) オープン講座
- (3) 研究特別委員会二委員会（年六〜八回）
- (4) 統合保育講座（年五回）
- (5) 家庭教育講座（六地区）
- (6) 研究紀要発行
- (7) 研究部会（年十回）

☆湘南桜ヶ丘・西鎌倉
◎コーディネーター
☆問題提起者

- (2) 学事振興課・教育委員会と関連し、企画・立案・実行する事業
- ①新規採用教員研修会
五月十日、五月三十一日、六月二十八日、八月二日・三日、八月二十三日
- ②教育課程研究協議会
七月二十四日・二十五日
- ③いじめ問題講習会
未定

二 対外的事業

- (1) 関東地区教員研修大会
八月十七日・十八日
栃木県宇都宮市
フォーラム2
- ◎田中伸宜（綾南）
- ☆太陽第一・鈴鹿
フォーラム4
- ◎和田正弘（文庫）
- ☆横浜市教育委員会
幼児教育課・関東学院六浦
フォーラム11
- ◎今井恵子（鴨居）

- (3) 新規採用教員等研修運営協議会
- (4) 全日本私立幼稚園関係
・全日本私立幼稚園連合会十年経験者研修
十一月十日
柿の実幼稚園発表
- (5) 視聴覚・放送教育研究会

立幼稚園の保育の質の向上となり、それが子どもたちの幸せにつながることを願って研究部員一同、努力してまいります。各園のご理解と積極的な参加をお願いいたします。

三つの研究特別委員会では

A部会「子ども理解」

子どもの育ちを科学的視点から探る。子どもたちの生活面の自立は年々遅れる傾向にあるといわれています。手先の器用さや身辺自立、睡眠、食育環境などこれをとつても心配なことばかりです。この部会では、子どもたちの基本的な生活習慣の実態や保護者の生活態度から幼稚園として、どのように取り組んでいけばよいかを考えます。また、アンケート調査などを含めたデータをもとに子どもたちの生活が心や体の発達にどのように関わってくるのか現場を見つめながら考察し、保護者や教育現場にフィードバックできれば良いと思っています。(担当・佐伯妙有)

B部会「保育を読み取る」

普段の保育の中で「どうしてなんだろう?」「どうすればよかつたんだろう?」といった疑問を置き去りにして過ごしていることはないでしょうか。子どものふとしたしぐさや行動には、その子にとつての重要な意味や思い、そして、ささやかな育ちや変化が表れていたかもしれません。B部会では、このような思いを持つ先生方が集まり、子どもたちとのかかわりについて各自持ち寄った記録を通して振り返り、新たな見方に気づき共有しながら、次の保育につなげていくようにしていきたいと考えています。保育を考える上では、本当に基本的なことなのですが、より深く読み取り、考えていけるように講師に若月芳浩先生をお願い致しました。今年度から始まった部会です。実質的な取り組みはこれからですが、参加者

(十四名) 全員で力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。(担当・椿 伊智郎)

C部会「幼少連携のありかた」と「幼児教育の科学性」

「小1プロブレム」ここ、数年、小学校一年生についてさまざまな問題が提起されています。幼稚園で充実した生活をしてきた子どもたちが、小学校に入つてなかなかうまく適応できないという話も聞きます。幼児期から児童期への移行期をもつとスムーズに接続するためには、どうしたらよいか、さまざまな角度から科学的に研究する部会で、参加者は各々から経験豊かな園長、主任、教諭十六名です。(担当・志村雄治)

統合保育講座の目指すもの

平成十八年度の統合保育講座(障害児保育基礎講座)は五回シリーズで行います。前半三回を上原 文先生、後半二回を関水 実先生に担当していただけたことになりました。

第一回は、基本的な知識をわかりやすく学び、障害の違いや特徴を知ることから始めます。第二回は、他の子どもたちがいる中でどのような対応ができるのか、また、しなければいけないのかを学びます。第三回は家族支援、保護者の方への対応を考えます。四・五回は上原先生の講座を受けて、関水先生へといりまします。(担当・山田まり子)

平成十八年度の統合保育講座(障害児保育基礎講座)は五回シリーズで行います。前半三回を上原 文先生、後半二回を関水 実先生に担当していただけたことになりました。第一回は、基本的な知識をわかりやすく学び、障害の違いや特徴を知ることから始めます。第二回は、他の子どもたちがいる中でどのような対応ができるのか、また、しなければいけないのかを学びます。第三回は家族支援、保護者の方への対応を考えます。四・五回は上原先生の講座を受けて、関水先生へといりまします。(担当・山田まり子)

平成18・19年度 研究部員名簿

職名	氏名	園名	
担当副会長	吉原 久雄	池辺白ゆり	
部長	亀ヶ谷忠宏	宮 前	
室長	栗山 明	二宮めぐみ	
次長	難波 有三	はやし	
各地区協会研究部長	横 浜	小笠原 裕	平 戸
	川 崎	山田まり子	若 竹
	横 須 賀	長澤 英子	南 横 須 賀
	藤 沢	田淵 恵美	も み じ
	鎌 倉	高 方子	鎌倉みどり
	茅ヶ崎	飯塚 一美	湘南やまゆり第2
	湘 央	佐伯 妙有	伊勢原ひかり
	小 田 原	平松 章子	新 玉
	相 和	椿 伊智郎	でんえん
	相 模 原	熊坂 昌志	相模つばさ
理事	逗 葉	福井 真理	聖 マリア
	厚 木	大谷 佳子	厚 木
		柏木 照正	都 筑ヶ丘
		石渡 敬一	江 川
		中村 邦彦	比 企 谷
		石井 稔江	かぐのみ
	委 員	三橋 悦夫	飯 島
		志村 雄治	白 山
		仁藤 一成	川崎こまどり
		今井 恵子	鴨 居
	神崎富久子	ごしよみ	
	福田 光葉	西 鎌 倉	
	青木 正子	平塚めぐみ	
	石川 征子	こゆるぎ	
	田中 伸宜	綾 南	
	磯川 健	倉 見	
	深沢 肇	さがみひかり	
	永保 貴章	田 名	
	野津 直樹	ぬ る み ず	

10 LINKS 協会めぐり

湘中央地区私立幼稚園協会

会長 栗山 明



行政区域 平塚市・伊勢原市・
秦野市・二宮町
加盟園数 39園
園児総数 6956名

本協会は三市一町の私立幼稚園二十九園が加盟して結成され現在に至っています。

人口二十六万人の平塚市は二十三園の大規模で結成され、伊勢原市は人口十万人で現在十園の幼稚園が所属して協会運営が行われています。また人口三万人の二宮町は五園の小規模協会（ちなみに一昨年の町の出生率は一・一三）で少子化の傾向が経営面にも表れます。秦野市は私立幼稚園一園の加盟ですが、姉妹園が平塚市にあつて、孤立は見られません。異なった地域の連合協会ですが、地区の特性を互いに生かして、より強固な協体制と会の運営に尽力する所存です。

いま、教員の資質向上が求められていますが、この地区への新規採用希望者が年々減少している傾向があります。優秀な人材の確保のためにもその原因を経営者として真剣に考える時期にきています。また、お互いの研修によって資質の向上を図ることはいうまでもありませんが、一昨年あたりから二宮協会が湘中央、湘南、関東ブロック大会等で研究発表の機会を与えられたことも喜ばしいことです。

子育て支援が課題となる、今日、各行政への働きかけを今後一層強力に推進すべきと決意しております。
湘中央協会は、相模平野と大磯丘陵に大山連峰へと地域の豊かな自然環境に恵まれています。朝夕、大山連山を仰ぎ見ながら日々の暮らしが始まります。この豊かな環境を保育に生かしつつ、保育者一致団結して幼児教育に当たりたいと、心から願っています。

はい、こちら 事務局 です

梅雨の候、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。ここ神之本台に引越して三年目となりました。最寄の駅から急坂を上ること、会議のために移動が不便な点もありますが、富士山や横浜港の絶景に四季折々の花々、野鳥などの自然が楽しめる長所もあります。

さて、事務局職員の事務分担をご紹介します。小島 弘（振興部、特別委員会）大田めぐみ（経営管理部、財務部）岡田 好子（研究部、総務部、父母連）蓮田美智代（総務部、広報、庶務）

編集 後記

二十一世紀の特徴はITに代表される情報化社会ですが、新聞などの活字による文化は当初の予想に反し、むしろ再評価されています。文章の背後のあるかに把握するかは読者そのものの力量によります。わかりやすく柔らかいものが好まれる社会ですが、それだけでは自己成長に役立つとは思えません。

広報室室員

井上一彦（川崎協会）
金子敏明（横浜協会）
室北篤郎（横須賀協会）
福田光葉（鎌倉協会）
どうぞよろしくお願い致します。

平成18年度加盟園数

協会名	園数	園児数	協会名	園数	園児数
横浜	265	56,591	湘中央	39	6,956
川崎	81	22,284	小田原	12	1,458
横須賀	27	5,462	相和	27	5,293
藤沢	31	5,974	相模原	31	7,500
鎌倉	22	3,221	逗葉	7	957
茅ヶ崎	18	3,561	厚木	20	3,522
			計	580	122,779

前年度加盟園数 578園
18年3月31日廃園 川崎協会 久地梅園幼稚園
18年4月 入会 相模原協会 誠心相陽幼稚園
誠心第一幼稚園
誠心第二幼稚園

発行
社団法人神奈川県私立幼稚園連合会
〒221-0011 横浜市神奈川区神之木台22-14
県青少年課神之木台分館内
TEL. 045-430-3102 FAX. 045-430-3103

印刷
(有)石黒印刷
〒232-0056 横浜市南区通町3-50-1
シティコープ弘明寺101号
TEL. 045-713-0080 FAX. 045-713-0036